

## 平成 28 年 10 月 20 日参議院文教科学委員会議事録

○松沢成文君 皆様、お疲れさまでございます。無所属クラブの松沢成文です。

まず冒頭、松野大臣、水落副大臣、それぞれ大臣、副大臣の御就任、おめでとうございます。

私は、大臣所信にもありましたが、オリンピックの成功、その会場問題について今日は伺っていききたいなというふうに思っております。

まず、ちょっと唐突ですが、松野大臣はゴルフをやられますか。それと、このオリンピックの会場問題で、今ボート会場とかいろいろ問題になっていますが、ゴルフの会場についても大きな問題を抱えているということを御存じだったでしょうか。

○国務大臣（松野博一君） 私が住んでおります千葉県の市原市は、市内に三十三か所のゴルフ場がありまして、日本でも有数のゴルフ場の集積地帯であります。残念ながら私はゴルフはやりません。

あわせて、ゴルフ場の会場問題でございますが、先般の予算委員会において、松沢委員の質問の中において、霞ヶ関カンツリー倶楽部と若洲ゴルフリンクスの件について委員からの質問があったことを承知をしております。

○松沢成文君 ゴルフやらなくても全然構わないんです、当たり前ですけれども。

私がずっと追いかけているのが、このゴルフ場の会場選定は極めて問題で、このままだと大失敗するという危機感からなんです。

分かりやすく表を作らせていただきましたので皆さんもお付き合いいただければと思うんですが、実は、二〇二〇年のオリンピックの招致に向けて、二〇一二年二月の申請ファイルでは若洲ゴルフリンクスになっていたんですね、ゴルフ会場は。それが、二〇一三年一月の立候補ファイル、一年後の立候補ファイルでは霞ヶ関カンツリー倶楽部に突如変わっていたということなんです。この間に招致委員会の部会が開かれて、そこでどどどと変えられちゃったわけなんです。

それで、大臣、オリンピックの一つの理念として、しっかりとレガシーを残すんだと、これ、一番大きなポリシーじゃないかというふうに思います。レガシーというのは、オリンピックの例えばハードでいえば会場、あるいはソフトでいえばオリンピックのやったことがその後ちゃんとつながっていく、もっと言えば、会場について言えば、後の国民あるいは都市住民がその会場を利用して、オリンピックですばらしいプレーがあった会場だと、自分たちもそこでプレーできるといってスポーツの普及につながっていくこと、これがレガシーだ

と思いますけれども、実は、霞ヶ関カンツリー倶楽部、プライベートコースなんですね、高級会員制クラブ。普通の人、なかなかできないんです。これ、レガシーになりませんよね。片や、若洲ゴルフリンクスはパブリックコースで東京都所有です。ですから、会場費も掛からないんですね。

この二つを比べてみて、レガシーとなるのはどっちかと聞かれたら、大臣、どう思いますか。

○国務大臣（松野博一君） まず、東京大会における個々の競技場、競技会場の選定については大会組織委員会の権限と責任で行われるものでありまして、本来、私がお答えする立場にないと、これはもう松沢委員も御承知のとおりであり、このことを前提として御了解をいただきたいと思います。

オリンピックのゴルフ会場に関するレガシーをどのように捉えるか、このことは、人それぞれにおいて様々な評価があり、確たる定義はないものと考えております。松沢委員の方から御指摘のとおり、大会後も多くの国民が利用できることが重要だというお考えもあれば、大会後も世界のトッププロが集う国際試合が開催できるといった観点もあるのではないかと思います。したがって、どちらがレガシーとなるかについては一概には言えないものと考えております。

○松沢成文君 実は、ブラジルのリオの五輪のゴルフ会場も、実は最初はプライベートのコースしかなかったんです、リオには。決まっていたんです。でも、これではレガシーにならないということで、何とパブリックコースを建設して、それで、しっかりと国民の皆さん、ブラジルのリオの皆さんに今後使ってもらってゴルフを普及させようということわざ建設したんですね。

これを見ても、もうプライベートでやるというのは、実は全ての競技の中で、東京大会、ゴルフだけです。一般の人が利用できない施設でやるというのは。ほかは全部国民が利用できる施設でやるんです。これを見ても、全くポリシーに反していますね。

二つ目です。気象条件にちょっと行きましょう。

これ、実は埼玉県ですね、日本で一番暑いんです。いつも日本の夏の最高気温は、岐阜の多治見辺りと埼玉の熊谷辺りで三十八度ぐらいで競うんですね。この一番暑い埼玉県で一番暑い時期にやるわけですね。これ、大変なことになると思いますよ。

まず、日中の温度は三十五度を超えるとき多いです、オリンピックをやる七月下旬から八月上旬にかけて。それで、芝生の上は四十度ぐらいになるんですね。これだと熱中症続発、救急車のサイレンが鳴りやまないと言われているんです。一方、比較的まだ風が吹いて涼し

いのが、若洲は海のだ真ん中にありますから海風が吹きますので、体感温度が全然違うというんです。温度自体も三度から五度低いんじゃないかと言われているんです。

これは私が勝手に作っているんじゃないかと、これ誰が言っているかというのと、あの有名な気象予報士の森田さんが言っています。ですから、ゴルフをやるとしたら絶対に若洲の方がそれは楽でしょうと、霞ヶ関でやったら大変なことになるんじゃないですかと言われているんですね。それから、霞ヶ関の会員になっている、実は私の友人なんですけど、東京都病院協会の会長、河北博文先生、この方は医師であり霞ヶ関の会員なんです。このまま霞で強行すると、熱中症どころか死者が出る可能性がある、絶対にやめるべきだと、お医者さんであり会員が言っているんですね。

この気象条件を比べてみて、大臣、どちらがこれふさわしいと思いますか。アスリートファーストだと思いますか。

○国務大臣（松野博一君） 東京大会に向けた暑さ対策について検討するために、内閣官房において競技会場等の気象条件を調査したところであり、現在その調査結果を取りまとめているところと伺っておりますので、現時点でコメントすることは差し控えさせていただきたいと思います。

○松沢成文君 是非ともその調査結果を私たちも見せていただきたいと思うんですが。

次に、会場へのアクセス、今、ポート・カヌー競技場も、このアクセス、大きな問題になっていますけれども、まず霞ヶ関でやる場合、川越の近くには宿泊施設がほとんどありません。川越の駅前にビジネスホテルがあるぐらいですね。そこはとてとても宿泊には使えない。したがって、選手村からほとんどの方、行くことになると思います。そうすると四十四キロ、遠く離れています。

これ、大変なんです。車で行くと一・五時間、渋滞したら二時間以上掛かります。高速道路で行くとしたら、首都高から東京外郭、関越通って、それから圏央道まで通っていかなきゃいけない。大変なことですね。物すごく遠いです。片や、若洲ゴルフリンクス、選手村から六キロですよ。これ、自動車使わないでゴルフカートで行けちゃう。もうコンパクト五輪で最適ですよ。それで、たくさんのギャラリーが来ます。東京駅、品川駅、羽田空港からそれぞれ車だと十五分ぐらいです。最高のロケーションですよ。

なぜ、もう一番いいところにパブリックコースの東京都所有のゴルフ場があるのに、遠くで暑くてアクセスめっちゃくちゃ悪い、これ、大渋滞が起きたら、それを防ぐために首都高の専用レーン作ると言っているんですよ、組織委員会検討しているんですよ。その補償費だけで私は何十億だと思いますよ。

このアクセスについて、これ、どう見ても若洲の方が全く優れていると思うんですが、ここはいかがでしょうか。

○国務大臣（松野博一君） 選手村からの距離ということは、これはもう物理的に若洲ゴルフリンクスの方が短いと思います。他方、選手村等から競技会場までどの程度の距離や移動時間が許容されるかということに関しては、組織委員会が競技団体等と協議の上、判断するものであると考えております。

○松沢成文君 今、五輪の会場の議論ですごく前面に出てくる言葉がアスリートファーストということですか。これは、五輪をする選手、あるいはもう少し広げると関係者、更に言えばそれを見に行く人たち、そういうことも考えてしっかりと運営しましょうよということだと思うんですが。

先ほどから申し上げているとおり、霞ヶ関はもうレガシーにならない。もう遠過ぎて大変です。もう行くだけで時間、渋滞にはまったら二時間、三時間掛かる。気象条件はもう日本一暑くて、下手したら死者も出る。こういう、これが果たしてアスリートファーストなのか。片や若洲は、パブリックコースでレガシーにもなるし、選手村からすぐそばだし、そして気象条件も比較的のぎやすいということでありまして、このアスリートファーストという面から見てどちらがアスリートファーストと思われませんか。

○国務大臣（松野博一君） アスリートファーストの面につきましては、コースレイアウトなどの競技性の観点でありますとか選手にストレスのないスムーズな大会運営の観点、先ほども議論になりましたが、選手にとっての会場移動の容易さの観点等、様々な観点から比較する必要があるものと思います。これに関してまた様々な評価があるのであろうかと思いません。

したがって、どちらがアスリートファーストの面から好ましいとは一概には言えないと考えております。

○松沢成文君 確かに大臣御指摘のとおり、例えばコース設定で霞ヶ関の方が広いじゃないかとか、名門クラブだからレイアウトもいいじゃないかと、こういう見方もあるんですね。

ただ、じゃ、若洲はそれで絶対にオリンピックができないようなコースなのか。そうじゃないんです。これは、日本のゴルフ協会の一部の人たちがもうやっぱり名門霞ヶ関でやりたいから、そっちに条件合わせちゃったんです。

例えば、国際ゴルフ連盟では規制がないのに、日本のゴルフ連盟で三十六ホールあるとこ

ろじゃなきゃ駄目だと勝手に作っちゃったの、条件。国際ゴルフ連盟はそんなこと言っていない。だから、ブラジルの今度のゴルフ場は十八ホールでやっているんですね。

それから、距離の延長だって、若洲もちょっと改良するだけで、霞ヶ関も七千ヤードなかったんです。これ、I O Cが、できたら七千ヤード欲しいと言っていた。でも、霞ヶ関も若洲もなかったんですが、両方ともちょっと改良するだけで十分距離も延ばせるし、それからギャラリースタンド、仮設ですが、駐車場、ゴルフ練習場も、実は若洲ゴルフリンクスも隣に大きな都有地がありますので、そこをちょっと改良するだけでできるということで、コース設定においても、まあ三十六ホールあって広いという意味で霞ヶ関に丸を付けて、ここは若洲が三角ですけれども、この部分でも私は十分に国際連盟を説得できるというふうに思っています。

さあ、最後に、この経費の問題です。今、オリンピック会場で小池都知事も一番、お金が掛かり過ぎるじゃないかと、それを補填するのは都の税金だということでここにこだわっていますが、いや、これも莫大になると思うんですね、霞ヶ関では。

まず、警備費です、警備費。これ、コンパクト五輪で東京の中心で警備やるのとどんどん会場を遠くに造ってそこで警備をやるのでは、圧倒的にコストは分散化した方が掛かっちゃいます。簡単に言えば、埼玉県警にも警備をお願いしないと霞ヶ関は警備ができません。

それから、輸送費ですね。遠くですから、車も人も、これギャラリーも大会運営者も運ばなきゃいけないと。この輸送費の中には、高速道路のオリンピック専用レーンを作るのかどうか。これ作らないと、恐らく二万人クラスのギャラリーを都心部から運ぶのは無理だと思います。恐らく、行き帰り四、五時間掛かってしまう、交通事情悪いですからね。

それから、霞ヶ関はプライベートクラブですから、約一か月間、オリンピック用にゴルフ場を借り上げなきゃいけないんです。これも膨大な額になるんですね。若洲の方は東京都営ですから、そんなお金は必要ない。近くですから、高速道路を借り上げる必要ない。あるいは、警備だって都心一帯の中で警備ができる。周りじゅう、三面が海ですからやりやすいんですね。

さて、ここはちょっと水落大臣にお伺いしたいんですけれども、オリンピック担当副大臣ということでもありますので、この大会経費、これどう見ても、私は、若洲の方が節約できるし、霞ヶ関だと膨大な経費が掛かってしまって、このままいくとまた東京都の小池さんにストップ食らうんじゃないかと、それぐらいに大きく差が出ると思いますが、いかがでしょうか。

○副大臣（水落敏栄君） 松沢先生の御質問にお答えしていきたいと思います。また、松沢先生には、三年間御一緒にこの文教委員会ですらいろいろと御指導いただいてまいりました。

大会経費につきましては、開催都市である東京都と大会運営に責任を負う組織委員会が大会の開催に直接資する業務を洗い出して、それに基づいた積算を行う必要がありますけれども、現実においては業務を確定するには至っておらず、大会経費は示されておられません。

競技会場ごとの経費を算出するためには、輸送費の算出に当たっては、あるいは高速道路にオリンピック専用レーンを設定するかどうか、あるいはその専用レーンの設置時間をどの程度にするのかとか、御指摘の警備については、競技会場周辺にどの程度のフェンスを張り巡らすのかとか、あるいは警備機材をどの程度導入する必要があるのかとか、いろんな事項を検討する必要があるとお聞きをしております。

例えば仮設施設の整備については、観客動員数を踏まえたどの程度の規模のスタンドを設置するとか、いろんなことがあると思いますけれども、そうしたことを一つ一つまだ検討して判断してはいないというふうに聞いております。

今申し上げたような事項が固まっていないために、どちらのゴルフ場の方が開催経費が抑えられるのかという、そうした視点がまだ見えてきておりませんので、私の立場から今現在お答えすることはできないことを御承知いただきたいと思っております。

○松沢成文君 東京に会場が決定したのが二〇一三年の九月ですよね。それで、実は、この招致委員会から組織委員会にこれは変わりました。そのときに、開催会場が東京に決定後にこの経費についてはすぐに協議に入るということになっているんです。それから三年たっているんですよね。全く幾ら掛かるか分からない。これは私は組織委員会の怠慢じゃないかと思うんですね。

それじゃないと、私たちも議論できないですよ、国会で。こんな無駄な会場費使っているのか、交通費使っているのか、こっちの会場でやればもっともっと経費節減できるじゃないかって、こういう議論ができるんですが、これ全部分かりませんと。

そこで、これ、組織委員会に可及的速やかに、霞ヶ関で、会場でやった場合の開催経費を出していただきたいと思うのですが、それをこの委員会から政府を通じて組織委員会に資料要求をしていただきたいんですが、よろしく申し上げます、委員長。

○委員長（赤池誠章君） ただいまの件につきましては、後刻理事会において協議をいたします。

○松沢成文君 大臣、オリンピックの方針を決める最高意思決定機関に調整会議というのがございます。この調整会議のメンバーには、政府の方から文科大臣とオリパラ担当大臣、それから東京都知事さん、JOCの会長さん、組織委員長、会長さん、こんなメンバーだった

と思いますけれども、ここでいろいろ議論ができるんですね。

今、会場の問題になっているのは、経費が掛かり過ぎるからこれはおかしいとって東京都から問題提起がされているんです。ただ、私は、組織委員会、今の組織委員会の怠慢で、三年もたっているのに経費の計算もできていない。そして、私が先ほど指摘しているように、レガシーの面からも、アクセスの面からも、気象条件の面からも、経費の面からも、アスリートファーストの面からも、どう見てもオリンピックの理念に逆行している霞ケ関を強引に選定したんですね。これは完全な誤りだと思っているんです。

ですから、大臣の方から、これは丸川大臣にも、私、予算委員会でもお願いしましたが、この調整会議の場で、ゴルフ会場このままでいいのか、国会では大変厳しい意見が出ているよと、もう一回経費も含めて議論し直そうじゃないか、こうやって問題提起をしていただきたいんです。そうしないと、これは東京都民にしても、最終的には国民にもツケが回ってきますから、無駄なお金をどんどん使って一部の人の勝手な論理で会場を決めてオリンピックを強引にやろうとする、その結果は大失敗だったと。最悪の結果をもたらしますよね。

調整会議で是非とも、大臣、問題提起をしていただけないでしょうか。

○国務大臣（松野博一君） 国会の場でこのような問題提起がなされたことを調整会議において何らかの形でお伝えをしたいと考えております。

○松沢成文君 ありがとうございます。

水落副大臣、是非とも組織委員会の会長にも、まあ大臣にも含めて伝えていただきたいんですが、実は日本プロゴルフ協会の会長、今、倉本昌弘プロですね、いよいよ声を上げてきてくれているんです。彼は実は二年前に、若洲ゴルフリンクスのすばらしさについて、オリンピックは絶対に若洲でやるべきだという提言書を東京都議会の方に送っているんですね。それに続いて、実は、元選手会長だった横田真一プロ、それから、この前ブラジルのゴルフを視察というか、コメンテーターで行った佐藤信人プロ、こういう有名プロも、もう霞ケ関は絶対におかしい、若洲でやるべきだと、もう一回見直すべきだという声がどんどん今上がってきています。霞ケ関の理事の中からも、理事側の中からも、こんなので強行したらまずいんじゃないかという意見上がってきているんですね。

実は、倉本プロはその中でこういう言い方をしているんです。大都会の真ん中にあるゴルフ場、そしてごみの島を埋め立ててそれを環境的に見事に再生して利用しているゴルフ場、これは世界に衝撃を与え、ゴルフ場の概念を変える大きな世界へのメッセージになるはずだと。つまり、私の作ったこういう比較表だけでなく、オリンピックのソフトレガシーということを考えても、日本のアピールを考えても、好ましいのは絶対に若洲だというふうにプ

ロゴルフ協会の会長も言い始めているんですね。ですから、もうこれは私はこのままにしておいたら絶対にまずいと思っています、レガシーのためにも。

是非とも、大臣と御相談いただいて、今後の大きな検討課題にしていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○副大臣（水落敏栄君） ただいま松沢委員からのお話、国会の場でこのような問題提起があったということは何らかの形でしっかりお伝えしてまいりたいと、このように思っております。

○松沢成文君 最後に、ちょっと時間がありますので、一つだけ情報提供させていただきます。

実は、今年の八月九日、霞ヶ関のカンツリー倶楽部の気温は三十七度を超えました。その二日前、八月五日、この日は三十五度ぐらいだったです。ここで実は六十名参加のゴルフコンペが行われました。その中で三人が熱中症で倒れ、病院に運ばれております。六十分の三ですよ。

今、組織委員会は、最低二万人ギャラリーを呼びたいと言っているんです。それで、大会関係者、メディア関係者、そして警備関係者含めると、霞ヶ関には二万五千人ぐらいの人が集うんですね。六十分の三、つまり五%、これ単純計算はできませんが、二万五千人集まったら何と千二百五十人が熱中症で倒れる計算になるんです。そうしたら、埼玉中の救急車を霞ヶ関に集めても足りません。これ、本当に考えなきゃいけないのは、霞ヶ関、埼玉内陸部の夏の暑さは異常です。熱中症でばたばた倒れる。三十五度超えたら恐らく熱中症の警報が出て、競技はストップしなきゃいけなくなる。それは人命のためにです。

本気でここは考えていただかないと、私はこのゴルフ場の選定のままですらオリンピックのゴルフ競技は大失敗に終わるといって危機感を持っておりますので、是非ともこうしたことを考えていただいて、御検討いただきたいと思います。

以上です。ありがとうございました。